芝浦食肉衛生検査所
港区港南二丁目7番19号
食肉センタービル9階

検査所だより

電話 03（3472）5175
FAX 03（3450）6745
令和6年11月発行(No.60)

食品衛生歳末一斉監視事業を実施します

令和6年12月1日から12月30日まで

歳末は、クリスマスやお正月など様々なイベントのため、食品が短期間に大量に流通する時期です。また、冬場はノロウイルスによる食中毒が多発します。

芝浦食肉衛生検査所では、歳末を迎えるにあたり、食中毒予防や適正表示の徹底などを図るため、食肉市場内の食品取扱施設・取扱者、食肉輸送車、表示などの一斉監視を実施します。ご協力をどうぞよろしくお願いします。

夏期衛生監視での指摘事項（抜粋）

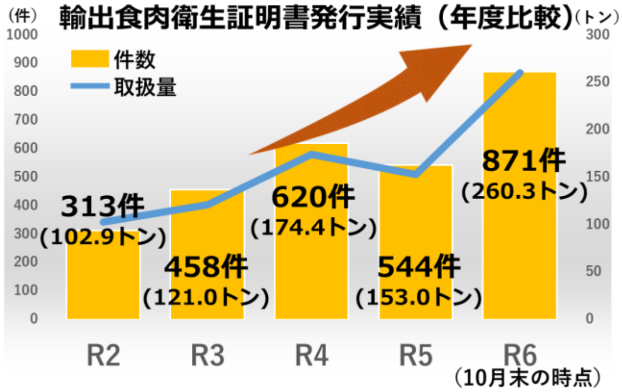
夏期に指摘された箇所を再度点検してください！

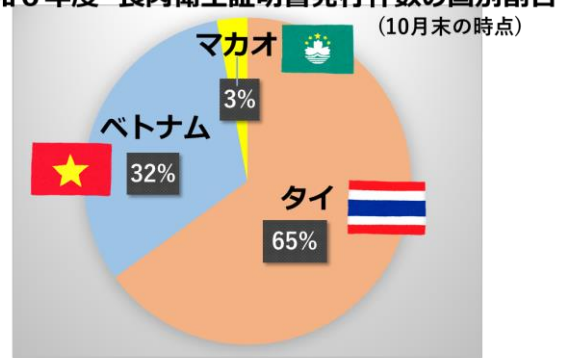
- 床や壁の清掃不良
- 表示保管温度と異なる温度での保管
- 表示のない包装済み製品の保管
- 清掃器具の不衛生な保管（清掃用具の直置きなど）
- 特定危険部位の不適切な管理（脊柱専用廃棄容器に目印がないなど）
- 点検記録の記入漏れや不備（記録の先付け、押印漏れなど）

国産牛肉の輸出量増加中！

芝浦食肉衛生検査所では、輸出先国向けの輸出食肉の要件を満たし、輸出可能であると確認できたものについて食肉衛生証明書を発行しています。

今年度は10月末までに、871件（約260トン分、全て牛肉）の衛生証明書を発行しており、既に昨年度の実績を超えています。国別の割合は、昨年度と同様、タイが一番多く65%、次いでベトナム32%、マカオ3%でした。





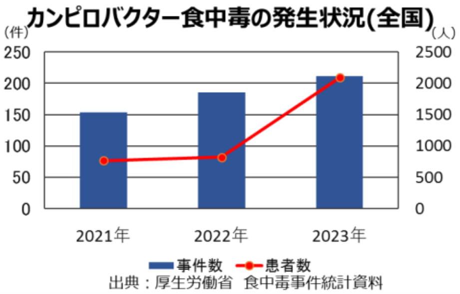
年々増加する輸出量に対応するためには、事務の効率化が必要です！書類審査や検品で不備が見つかると、再提出・再検品となり時間と手間の両方が増えてしまいます…

チェック表を確認してミスを減らし効率化していきましょう！

カンピロバクター食中毒増加中！

カンピロバクター食中毒は、国内で発生している細菌性食中毒の中で、近年、発生件数が最も多く、令和５年は事件数211件、患者数2,089人と過去３年間で最多でした。

カンピロバクターは、鶏・豚・牛など様々な動物が持っている細菌で、健康な牛の肝臓及び胆汁中からも検出されています。昨年度、当所の調査研究の中で「牛におけるカンピロバクターの保有状況」について調査したので、ご紹介したいと思います。



調査研究　牛におけるカンピロバクターの保有状況調査

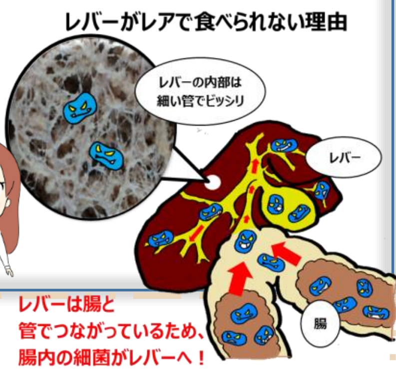
平成24年の食品の規格基準改正により、牛の肝臓の生食用としての販売・提供が禁止されたよね！改正前の平成23年には、カンピロバクター食中毒の原因の約20%が牛レバ刺しによるもので、**約30%**の肉用牛の胆汁からカンピロバクターが検出されたんだって。

牛肝臓の生食が規制されてから10年以上経ったけど、今はどうなっているのかな？

令和４年及び令和５年に芝浦と場に搬入された、牛300頭分の胆のう内から胆汁を採材して調査してみたら、**32.0%**の牛胆汁からカンピロバクターが検出されたよ。つまり、平成23年の調査と同様の結果になったんだ。

なぜ、腸内に住むカンピロバクターが胆汁から検出されるの？

肝臓で合成された胆汁は、一時的に胆のうに蓄えられ、管を通って消化器官である**小腸**に送られるよ。この輸送路は、腸内に住む食中毒細菌が肝臓に逆に侵入する通路にもなるの。**牛肝臓の生食が禁止となった現在も、加熱不十分な牛肝臓の喫食による食中毒のリスクは依然高い**ってことだね。



TOPICS　ランピースキン病（届出伝染病）

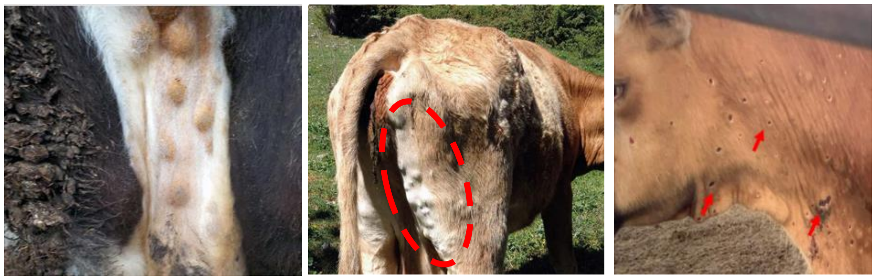
令和６年11月６日に国内で初めてとなる『ランピースキン病』の発生が確認されました。元々アフリカで流行していた病気ですが、2019年以降、台湾や韓国などのアジアにも感染が拡大しています。

どんな病気？

ランピースキン病ウイルスによる牛及び水牛の伝染病です。人には感染しません。

主な症状は、発熱、食欲不振のほか、全身（特に頚部、背部、脚部、外陰部などの体表）に**数個～数百個の結節を形成**します。一般的に致死率は低く、ほとんどの牛は自然治癒しますが、回復までに数か月以上かかる場合があります。結節は、回復後も瘢痕が残る可能性があり、皮革の損傷など経済的な損失の原因となります。吸血昆虫（蚊、サシバエ、ダニなど）の媒介による機械的伝播や、感染牛の移動、汚染された飼料や飲水の摂取などにより感染が拡大します。

有効な治療法はなく、蔓延を防止するためには、発症牛（疑い牛を含む）の早期発見、隔離、移動の自粛、ワクチン接種、飼養器具の清掃・消毒などの総合的な防疫対策が重要です。



出展：FAO（国連食糧農業機関）HP、モンゴル国中央獣医学研究所

有効な消毒薬：消石灰、エタノール、次亜塩素酸ナトリウムなど

病名の由来は？
lumpy（でこぼこした）
skin（皮膚）

複数の畜産関係車両が出入りする市場、と畜場等の畜産関係施設を介した病原体伝播は、感染拡大の要因の一つとして懸念されます。家畜防疫の観点から、引き続き、入退場時の車両等の消毒を徹底していただくよう、御協力をよろしくお願いします！